

マタイ 5 : 1-12

- 5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。  
5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。  
5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。  
5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。  
5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。  
5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。  
5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。  
5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。  
5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせる  
とき、あなたがたは幸いです。  
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前  
にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

はじめに

聖餐式に与る日曜日には、マタイの福音書に記されたイエスの五大説教のシリーズを学んでいます。

先月は、マタイの福音書全体について少しご紹介したので、マタイ 5 : 3 だけしか学ぶ時間がありませんでした。そのみことばは、次のとおりです。

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」

メッセージの最後には、心砕かれて神のもとに来る人は、傷ついたまま去ることはないと言われ、締めくくりました。

私たちが自らの貧しさを認識することを神はお望みです。そうすれば、聖霊によって神が私たちに豊かにしてくださるからです。

今日の箇所である 4-6 節では、神が祝福をもって私たちに報いてくださいます。けれどもその学びに入る前に、意味が明確になるように、この言葉がもともと記された原語をしっかりと理解していただきたいと思います。

「幸いです」と訳されたギリシャ語の単語は、「マカリオイ」です。

これは、「十分に満たされる」という意味です。

古典ギリシャ語では、この単語は、死後に祝福される状態を指します。

しかし、新約聖書ではこの単語が救いによって得られる喜びを指して用いられています。

これは、ダビデが詩篇 51 : 12 で求めた喜びです。

詩篇 51:12 あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。

この喜びと充足感は、順風満帆な人生から得られるものではありません。

私たちの心にイエス・キリストが住まわれることによってのみ得られるものです。

ですから、「マカリオイ」を幸せと訳するのは間違いです。幸せというのは、自分を取り囲む環境が望ましいこととつながる言葉です。

祝福されているというのは、静止した状態ではなく、常に進行形です。

その進み具合は、マタイ 5 : 3-11 でイエスが教えられた条件をどれくらい満たしているかによって決まります。

イエスは、「心の貧しい」者は神の御国に入ると最初に語られました。そこから、救いという覆いのもとにある祝福について話を展開されます。

つまり、私たちがクリスチャンになるとまずイエスを心の中に受け入れます。これが新しいのちの始まりです。

イエスについていき、弟子の姿勢についての教えに従うと、そこに大きな祝福があります。一方、自分のニーズに気づかず、イエスに助けを求めなければ、得られるはずの祝福も逃してしまいます。

では、イエスに従う者にイエスが与えようとなさる次の3つの祝福について学びましょう。

## 1. 「悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。」 (マタイ 5:4)

最初に明らかにしておくべきことがあります。

「悲しむ」と訳された部分は、英語では「mourn」と訳されており、通常、親族が亡くなった哀悼を指します。

しかし、イエスの説教では、この単語は哀悼とは無関係です。

ここでは、自分の罪を悲しむことを意味します。

つまり、自分の罪を悲しむ者をイエスが慰めてくださると言っておられるわけです。

ある注解者は、「涙を流すことなく、御国の喜びだけを経験したと主張する人は、この言葉の真意をわかっていない」と言います。(デービッド・ジャックマン、マタイの福音書を教える、39 ページ)

ここでイエスは、イザヤ書 61:1-3 の預言を成就しておられます。

### イザヤ書 61:1-3

61:1 神である主の霊が、わたしの上にある。【主】はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、61:2 【主】の恵みの年と、われわれの神の復讐の日を告げ、すべての悲しむ者を慰め、61:3 シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。彼らは、義の樅の木、栄光を現す【主】の植木と呼ばれよう。

自らの罪と周囲の人々の罪、そして国中また世界中の人々の罪を悔いて悲しむことは、私たちになじみがなく、すぐに身につくことではありません。

聖書には、そのような体験を私たちに教えてくれる登場人物がいます。

### ダニエル 9:3-13

9:3 そこで私は、顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた。9:4 私は、私の神、【主】に祈り、告白して言った。「ああ、私の主、大いなる恐るべき神。あなたを愛し、あなたの命令を守る者には、契約を守り、恵みを下さる方。9:5 私たちは罪を犯し、不義をなし、悪を行い、あなたにそむき、あなたの命令と定めとを離れました。9:6 私たちはまた、あなたのしもべである預言者たちが御名によって、私たちの王たち、首長たち、先祖たち、および一般の人すべてに語ったことばに、聞き従いませんでした。9:7 主よ。正義はあなたのものですが、不面目は私たちのもので、今日あるとおり、ユダの人々、エルサレムの住民のもの、また、あなたが追い散らされたあらゆる国々で、近く、あるいは遠くにいるすべてのイスラエル人のものです。これは、彼らがあなたに逆らった不信の罪のためです。9:8 【主】よ。不面目は、あなたに罪を犯した私たちと私たちの王たち、首長たち、および先祖たちのものです。9:9 あわれみと赦しとは、私たちの神、主のもので、これは私たちが神にそむいたからです。9:10 私たちは、私たちの神、【主】の御声に聞き従わず、神がそのしもべである預言者たちによって私たちに下さった律法に従って歩みませんでした。9:11 イスラエル人はみな、あなたの律法を犯して離れ去り、御声に聞き従いませんでした。そこで、神のしもべモーセの律法に書かれているのろいと誓いが、私たちの上にふりかかりました。私たちが神に罪を犯したからです。9:12 神は、大きなわざわいを私たちにもたらすと、かつて私たちと、私たちをさばいたさばきつかさたちに対して告げられたみことばを、成就されたのです。エルサレムの上を下ったほどのわざわいは、今まで天下になかったことです。9:13 このわざわいはすべて、モーセの律法に書かれているように、私たちの上に下りましたが、私たちは、不義から立ち返り、あなたの真理を悟れるよう、私たちの神、主に、お願いもしませんでした。

### ダニエル 10 : 1-3

10:1 ペルシヤの王クロスの第三年に、ベルテシャツアルと名づけられていたダニエルに、一つのことばが啓示された。そのことばは真実で、大きないくさのことであつた。彼はそのことばを理解し、その幻を悟っていた。 10:2 そのころ、私、ダニエルは、三週間の喪に服していた。 10:3 満三週間、私は、ごちそうも食はず、肉もぶどう酒も口にせず、また身に油も塗らなかつた。

ダニエルは正しい人でしたが、神の民が犯した罪のために悲しんでいました。

### イザヤ書 6 : 1-5

6:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、 6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、 6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」 6:4 その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。 6:5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の【主】である王を、この目で見たのだから。」

イザヤが神のそばに来た時、まず自分の罪を認めて悲しみました。

私たちはどうでしょう。私たちは、自分の罪を悲しむという体験をしたことがありますか。

自らの罪のために心が引き裂かれるとはどういうことか、わかっているでしょうか。

私たちは自分の罪の深刻さを理解しているでしょうか。

私は 25 歳のときに、「罪を悲しむ」という以外に表現のしようのない体験をしました。約 3 週間続いたその経験を私は感謝しています。

それが私にとって人生のどん底の時期だったとウェンディも言うでしょう。

罪の意識にさいなまれ、嘔吐するほどでした。

当時はずいぶんつらかったですが、ついにデボン州エクセターの教会で主に立ち返り、悲しみが大きかった分、聖霊の慰めも大きく感じられました。

今年の夏、私は祈りの支援者とお会いします。中には、私が主に立ち返った日にそこにいた人たちもいます。その日、私は神の聖霊に触れられ、何時間も泣き続けました。

その日に感じた罪を赦された喜び、神の慰めを受けた喜び、そして神の民の愛は、一生忘れません。そして、涙なしには全容を語ることはできません。

罪を悲しむ心を持つことは、救われる前や主に立ち返る前だけに限られていません。伝道や救霊の働きへとかきたてるものでもあります。

私の知り合いに、テキサス出身のサミー・ティペットという伝道者がいました。

当時、彼はエジンバラの聖会で講師をしていました。その聖会は、私が通っていた聖書学校（フェイス・ミッション）の主催でした。

彼は当時、36 歳くらいの若者だったと思います。

私は、サミー氏がこの聖会に来る前には北アイルランドのベルファストをあちこち歩いていたと、聖書学校の学長から聞きました。

そして、町のあちこちを歩いていると、その地域の人々の罪のためにサミー氏の心は神に砕かれたそうです。

彼は、ベルファストの人々の罪のために、一日中祈りました。

これが、福音を語るために必要な備えでした。神は、サミー氏の心を整えられました。そこに、罪を悲しむことも含まれていたのです。

あれから 35 年経った今、神は 71 歳になったサミー氏を今も用いておられます。

日本の罪のために悲しむクリスチャンが増えたなら、神の聖霊の働きを必ずもたらすでしょう。

ここで尋ねします。あなたは、このことにおいて神に用いていただく覚悟がありますか。

英国でよく歌った賛美歌があります。その歌詞は次のとおりです。

生ける神の御霊よ、わが上に新たに臨みたまえ  
生ける神の御霊よ、わが上に新たに臨みたまえ  
われを砕き、形作り、用いたまえ  
生ける神の御霊よ、わが上に新たに臨みたまえ

この歌詞が私たちの人生で現実になったらどうでしょう。  
これは大きな課題です。

## 2. 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。(マタイ 5:5)

この5節について考えると、詩篇 37:9,11,22,29 が思い浮かびます。

### 詩篇 37:9、11、22、29

37:9 悪を行う者は断ち切られる。しかし【主】を待ち望む者、彼らは地を受け継ごう。  
37:11 しかし、貧しい人は地を受け継ごう。また、豊かな繁栄をおのれの喜びとしよう。  
37:22 主に祝福された者は地を受け継ごう。しかし主にのろわれた者は断ち切られる。  
37:29 正しい者は地を受け継ごう。そして、そこにいつまでも住みつこう。

イエスは、旧約聖書にあるイスラエルの民の約束の地という祝福を取り上げ、新約聖書の福音のメッセージにあてはめます。

まず、私たちは「柔和」という単語を理解しなければなりません。

これは、ギリシャ語の「プラオス」で、柔らかいとか優しいという意味です。

この言葉は、痛みをやわらげる薬や、そよ風を表現するのに使われました。

暑い夏の夜に、涼しい風を送ってくれるように扇風機をつけるような感じです。また、幼い子が歯の生える痛みをやわらげる薬を飲んで、痛みや不快感を緩和するような感じです。

または、馬などの動物が調教師によっておとなしくなることを指すときにも使われました。

アメリカの古い西部劇などでは、馬に乗れるようにカウボーイが馬をならす様子が描かれます。

「柔和」な人間とは、穏やかで謙虚ででしゃばらず、仕える姿勢のある人です。

ゼカリヤ 9:9 シオンの娘よ。大いに喜び。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。

イエスは、ろばに乗って謙虚な姿でエルサレムに入ったと記されています。

謙虚は柔和と同じような意味です。

柔和は弱さではありません。柔和は力の制御を意味します。飼いならされた馬と同じです。

A.W. トーザーは言いました。

「柔和な人は、自分の劣等感を刺激された実験用マウスではない。むしろ、善悪をわきまえる上でライオンのように大胆でサムソンのように強い。その一方、自分自身について欺かれない人物である。」

イエスは、「柔和」な人が祝福として、地を受け継ぐとおっしゃいます。

それは、この世の土地のことではなく、イエスとともに暮らし、イエスに仕える「新しい地」です。イエス・キリストを信じる信徒にとって、祝福の希望です。

神の御国は現在と未来のものです。

私たちは、イエスを信じたときに神の御国に属する者として生まれ変わります。

自分のことや自分が求めている物のことばかり考えている状態から、イエスのこと、そしてイエスの赦しと愛をなんとしてもいただく必要があることに思いが及ぶには、「柔和さ」が必要です。

とても単純なことです。祝福は、イエスの教えておられるほうへと進むことでいただけます。そして、一番の祝福は死後にいただくのです。けれども、自分勝手な道に進むなら、どんなに追い求めても充足感の得られない人生を生きることになり、死後には最悪の結果が待っています。

### マルコ 10 : 17-22

**10:17** イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。」 **10:18** イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもありません。 **10:19** 戒めはあなたもよく知っているはずです。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』」 **10:20** すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」 **10:21** イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」 **10:22** すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。

この話に登場する人は、永遠のいのちを受けるためにイエスのもとに来ました。けれども、「柔和」な生き方をしようとしなかったのが、悲しみながら去っていきました。彼には、永遠の宝を受けるために、この世の一時的な物を手放そうという気がありませんでした。私たちも正真正銘のクリスチャンになりたいなら、天にある永遠のいのちがこの世のはかない物事よりはるかに尊い報いだという視点を持たなければなりません。

### 3. 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。(マタイ 5 : 6)

今朝の最後のポイントはとても大切です。

英国で有名だったウェールズ人の説教者マーティン・ロイド・ジョーンズは、次のように言いました。

「クリスチャンの信仰告白において自らを吟味するのにもっとも適しているのはこのようなみことばである。この個所が聖書全体の中でもっとも恵まれるみことばであるなら、自分はクリスチャンだと確信できる。もしそうでないなら、信仰の土台を再確認するべきである。」

この昔の説教者が言おうとしているのは、神の聖さに飢え渴かない人は、実際には新生していない、生まれ変わっていないということです。

神の聖さによる新しいいのちを味わったことがなければ、それをさらに求める渴望は生まれません。

たとえを使って話してみましよう。

私の妻ウェンディは、とてもおいしいケーキやスコーンを作ります。

ウェンディの手作りのケーキを食べたことのある人はいますか。

また食べたいと思いませんか。

それは、ウェンディの手作りケーキを食べたことがあるからです。

一度も食べたことがない人にとっては、騒ぎ立てるほどのことではありません。

クリスチャンの人生も同じです。

イエスとともに生きる天のいのちを一度体験すると、それがほんの少しであっても、自分の人生にもっと神のご臨在を求めるようになります。

実話

第一次世界大戦中、パレスチナ解放を目指して英国、オーストラリア、ニュージーランドの三国同盟軍がトルコ軍を砂漠に追いやりました。同盟軍はトルコ軍を追って北上しましたが、飲み水がなくなっていました。喉の渇きと頭痛でめまいがして失神しそうになりました。夜までにシェリアの井戸に辿り着かなければ、多くの兵士が死んでしまうことが予想されました。

そして、ついにシェリアの井戸に辿り着きました。

弱っている者や負傷者にまず水が手渡されました。

他の兵士たちは、静かに待ちました。

全員に水が行きわたるまで4時間もかかったといいます。

当時、あるクリスチャンの兵士が次のように語ったと言われています。

「ベエルシェバからシェリアの井戸までの道のりで、皆が聖書の最初の教えを学んだことでしょう。神と神の義、そして私たちの人生に対する神のみこころを求めてこれほどまで渇き、夢中になって求めるなら、私たちは聖霊の実をどれほど豊かに実らせるでしょう。」

皆さんが神の義を求めてさらに飢え渇くことを望みます。

そうすれば、神が私たちを満たすと約束しておられます。

### ルカ 18 : 10-13

18:10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとり取税人であった。 18:11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。 18:12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』 18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』

イエスがこの話をなされたのは、自分の正しさを頼りにしている人たちがいたからです。

イエスがこのたとえ話で伝えたかったことは、神から祝福をいただくための最初の4つの条件から伝えたかったことと同じです。

イエスの十字架をとおして、そして私たちのためにイエスがしてくださったすべての御業をとおして、私たちは神からこの祝福を受け取れるのです。

今日の聖餐式は、イエスとイエスの救いの御業を感謝するためにあります。